

安寧



新しくなった鳥居前昭和天皇御製札

ホームページアドレス <http://www.himeji-gokoku.jp/>

兵庫縣姫路護國神社報
 「安寧」第二十一号
 発行所 兵庫縣姫路護國神社
 〒六七〇〇三姫路市本町一八
 電話〇七九二三四〇八九六
 安寧(あんねい)：世の中が穏やかで平和なとこ

英霊の言乃葉

奇麗な絵葉書ありがたう

陸軍伍長 小泉 博 美 命

独立自動車第百一大隊
 昭和十九年三月二十七日
 ビルマカレワ県にて戦死
 神奈川県出身 二十五歳

先日は大量の絵葉書を皆さんして誠に有難う御座いました。絵葉書の一つ一つがとても巧妙にすてきにそして奇麗に出来て居るのでびつくりしました。兄ちゃん一人ぢやないんだよ。戦友も班長さんも皆なの。御礼の御葉書を書かうと思つたのですけれど住所が分からないので出すわけにもゆかずちよつと困つてしまひました。そして最後に優秀な敬子ちゃんから級友の皆さんに御礼を云つて載かうと云ふことにしました。

戦地でもお正月になれば蜜柑や南京豆もあるしバナ、やお菓子も沢山あります。然し何処をさがしても皆さんの書いた美しい絵葉書や又は素敵なお写真は一つもありません。兄ちゃんは遠いビルマの戦地から皆さんに厚く〜感謝して居ります。

―謹みて御霊に捧ぐ―
 御佛の 生れし國なる 印度をば
 救はむ聖戦に 君神になりぬ

高津高等学校

札 場 眞 一 (妹の恩師)

(平成十七年十二月 靖國神社社頭掲示)





神職参進

● 秋季慰霊大祭 併せ
 ● ご創祀百二十五年
 ● ご鎮座八十年祭
 (十一月二日)
 ● 明治維新百五十年祭
 (十一月三日) 斎行
 ● 旧陸軍第十師団の顕彰
 (十一月二・三日)



賀堂流による詩吟



銃剣道奉納



第三音楽隊による音楽演奏

十一月二日(金)

秋晴れの中、祭典開始を告げる号鼓が鳴り、奉仕の神職を先頭に迎山大祭委員長・三宅崇敬奉賛会会長・柿原兵庫県遺族会会長・善見兵庫県神社庁副庁長が、七百名をこえるご遺族や崇敬者が見守る中拝殿へと参進する。祭典は修祓の後、ご英霊の鎮まり坐すご本殿の御扉をお開きし、ご神前に海川山野の味物と共に、茶道裏千家淡交会播磨支部・播磨青年部により心を込めて点てられたお抹茶やお菓子が供えられる。

宮司が祝詞を奏し、参列のご遺族はそれぞれにご祭神との思いに心を馳せる。祝詞の後には吟賀堂流の方々による詩吟「九段の桜」「あさみどり」が吟じられ、姫路市民合唱団は「月の砂漠」「里の秋」の歌を奉奏した。宮司より祭典



小林 一夫氏による居合

斎了の挨拶がなされ、滞りなく記念大祭が斎了する。午後からは陸上自衛隊姫路駐屯地の方々による銃剣道の奉納、小林一夫氏の居合。陸上自衛隊第三音楽隊の音楽演奏があり曲の中には「水戸黄門」など馴染みの曲もあり参列者も大きく盛り上がりを見せた。

十一月三日(土)

明治節の日、「明治維新百五十年祭」が斎行された。連日のお祭りにも関わらずご遺族や崇敬者など大勢参拝を頂いた。十時半の号鼓で、宮司以下神職が拝殿へと参進し祭典が始まる。当社ご創祀は、江戸時代末期、日本近代化の中で、志半ばにして亡くなられた方々を地元の方々のご意思によってお祀りしたのが始まりである。宮司がご神前にて祝詞を奏上し玉串を奉りその後巫女により神樂が舞われた。続いて神社総代を始め、各ご代表が玉串を奉奠し、最後に崇敬奉賛会常任理事前川氏に合わせ参列者一同が拝礼、



神職玉串拝礼



総代表玉串



藤原正彦氏講演

厳肅の内祭典を斎りました。午後からは「国家の品格」の著者であり、姫路文学館の名誉館長でもある藤原正彦氏による講演会が境内で行われ、参列者は一同に真剣なまなざしで講演を聞いた。



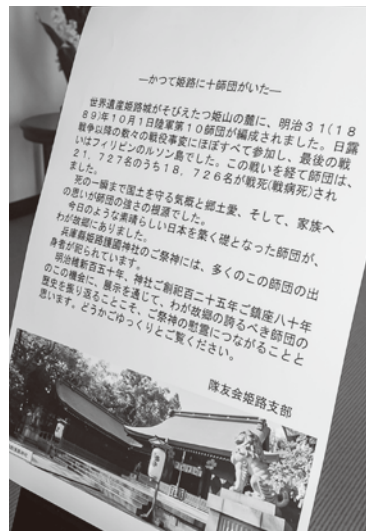
神樂奉奏



正式参拝



展示室風景



旧陸軍第十師団の顕彰

また両日、会館に於いて「旧陸軍第十師団の顕彰」と題し、隊友会により纏められた資料が展示され、祭典に参列された方などの見学者で賑わった。

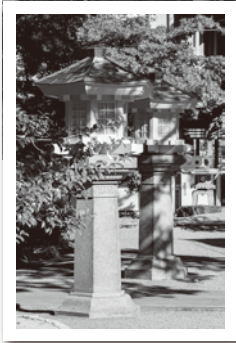
【記念事業報告】

〔平成三十年〕

- 八月一日 記念事業起工奉告祭齋行
- 八月三日 駐車場管理室空調設置
- 八月六・七日 東屋建設地植栽撤去
- 八月下旬 会館改修工事完了
- 八月下旬 参列者西扉改修工事完了
- 九月五日 鳥居前石畳敷設完了
- 十月十三日 小林政治氏ご奉納の鈴の緒設置
- 十月末 東屋・境内東隅休憩所・園路完成
- 十月末 境内石灯笼社務所前に灯笼移設
- 十一月末 鳥居前昭和天皇御製駒札完成
- 十一月十九日 記念事業終了奉告祭齋行



東屋で佇む人たち



社務所前に移設した灯笼

明治維新百五十年ご創祀百二十五年ご鎮座八十年記念事業奉賛ご芳名

〔宅拾萬圓以上〕

- 〔奉納一金、宅百萬圓也〕
 - 阿比野建設株式会社
 - 代表取締役社長 阿比野剛
 - 石川 誠
 - 株式会社 泉 平
 - 代表取締役社長 泉 周作
 - 岡田 兼明 兼典
 - 株式会社オーツカテック
 - 代表取締役 大塚 一登
 - 株式会社桂スチール
 - 代表取締役 三木 桂吾
 - 吟道賀堂流 総本部
 - 吟道賀堂流宗家 儀部 賀堂
 - 坂上建設株式会社
 - 代表取締役社長 坂上明憲
 - 株式会社新宮運送
 - 代表取締役 木南 一志
 - 龍力株式会社本店商店
 - 社長 本田 眞一郎
 - 濱中製鎖工業株式会社
 - 代表取締役 濱中 剛
 - 播州信用金庫
 - 理事長 和田 長平
 - 姫路信用金庫
 - 理事長 三宅 知行
 - 株式会社姫路生花卸売市場
 - 代表取締役社長 柴山 栄一
 - 太子 廣橋 一巳
 - 前川 武 則
 - 株式会社松尾学院
 - 代表取締役 松尾 健一郎
 - マルイチ株式会社
 - 代表取締役会長 吉川 賢三
 - ヤング開発株式会社
 - 代表取締役社長 伊藤勝之
- 〔奉納一金、宅拾五萬圓也〕
 - 靈友会 第八支部
 - 兵庫県中西部有志一同
 - 和田 長 平
 - 阿比野 善 行
 - 阿比野 剛
 - 三光塗装工業株式会社
 - 西はりまライオンズクラブ
 - 名 匿
 - 〔奉納一金、宅拾萬圓也〕
 - アマダ産業株式会社
 - 代表取締役 天田 善信
 - 元加西市軍恩連盟
 - 小林 政治〔鈴緒奉納〕
 - 株式会社清交俱樂部
 - 〔奉納一金、式拾萬圓也〕
 - 清水 正 光
 - 三木 英 一
 - 株式会社平野組
 - 代表取締役 平野 勝也
- 〔奉納一金、宅拾五萬圓也〕
 - 兵庫県隊友会姫路支部
 - 設計有限会社一級建築士事務所
 - アトリエフォルム
 - 施工 阿比野建設株式会社
 - 駒札揮毫 向井 琢美
 - 兵庫縣姫路護國神社
 - 總代会長 大川 久夫
 - 崇敬奉賛会会長 三宅 知行
 - 宮司 泉 和 慶
- 〔奉納一金、宅拾萬圓也〕
 - 旭機設株式会社
 - 代表取締役 佃 真悟
 - 有限会社アトリエケイ
 - 代表取締役 北浦 基広
 - 有限会社一級建築士事務所
 - アトリエフォルム
 - 株式会社 アビノ
 - 池尻殖産株式会社
 - 代表取締役 池尻 雅好
 - 吟道賀堂流宗家儀部賀堂
 - 岩 澤 定
 - 株式会社インテリア橋本
 - 代表取締役 橋本 鉄也
 - 榎本 朝 子
 - 大塚 正 稔
 - 株式会社川本石材商会
 - 関西瀝青工業株式会社
 - 株式会社キシモト
 - 後藤 英 夫
 - 株式会社佐々木塗装工業所
 - 島津 秀 伸
 - 有限会社昭と浄化
 - 株式会社新生興業
 - 田中 種 生
 - 田中 常 生
 - 辻 麵業株式会社
 - 會長 辻 福 継
 - 常 藤 光 志
 - 内 藤 政 義
 - 西 崎 健 太
 - 西日本衛材株式会社
 - 西日本建材工業株式会社
 - 西村 憲 行
 - 原田 一 男
 - 株式会社藤橋商店
- プレシャス株式会社
- 川 西 建 雄
- 前川推進建設株式会社
- 松 本 健
- 迎 山 正 明
- 株式会社裕商事
- 代表取締役 村岡 裕子
- 協賛遺族会芳名
- 姫路市遺族会
- 相生市遺族会
- たつの市遺族会
- 赤穂市遺族会
- 赤粟市遺族会
- 市川市遺族会
- 神河町遺族会
- 福崎町遺族会
- 太 子 町 遺 族 会
- 上 郡 町 遺 族 会
- 佐 石 町 遺 族 会
- 明 石 町 遺 族 会
- 加 古 川 市 遺 族 会
- 西 脇 市 遺 族 会
- 三 木 市 遺 族 会
- 高 砂 市 遺 族 会
- 小 野 市 遺 族 会
- 加 西 市 遺 族 会
- 多 可 町 遺 族 会
- 加 東 市 遺 族 会
- 播 磨 町 遺 族 会
- 稲 美 町 遺 族 会
- 豊 岡 市 遺 族 会
- 養 父 市 遺 族 会
- 朝 来 市 遺 族 会
- 新 温 泉 町 遺 族 会
- 香 美 町 遺 族 会



山口采希さんの演奏

崇敬奉賛会新年祈願祭は毎年成人の日に行われるが、今年は八十名を超える参加申し込みがあり、直会では山口采希さんの歌や参加者の意見披露などがあり和やかで有意義な時間を過ごした。

新年祈願祭齋行



正月風景



天皇陛下御即位三十年奉祝奉告祭

二月二十四日、午前十一時より天皇陛下御即位三十年奉祝奉告祭が齋行された。この日は姫路マラソンが開催され、朝早くより姫路城の周りは参加者や応援す

天皇陛下御即位三十年奉祝奉告祭齋行

祭典は、午前十一時から執行された。その後境内ではこの地方では珍しい雪降る中、皇紀二六七九年を祝う式典が実行委員会によって開催された。お昼には靈友会有志により温かいうどんやケーキ、コーヒーが販売され、互いにお国の誕生日を祝った。

建国祭齋行

午前九時から護国会館において日本会議兵庫会長 三木英一氏による「神武天皇の御東征と御即位について」と隊友会姫路支部 副支部長 村田定克氏による「自衛隊OBとしての国家感」という演題で講演会が開かれ、熱心に聞き入る人が会場は満席となった。



直会



集合写真



姫路マラソン

る人々で賑わっていた。祭典は神社総代や崇敬奉賛会の方々などが参列をされ、厳肅の内に祭典を齋了した。拜殿前では記帳所が設けられ、幅広い年齢層の方々が記帳された。記帳簿は謹んで神社庁を通じ宮内庁へ送付申し上げた。

シリーズ 英霊の戦場(二)

ビルマで散った

姫路の輜重兵第五十四連隊

*現国名はミャンマーですがビルマで統一します。
*記述に当って(○)は地図の地名位置

昭和十八年姫路の第十師団が満洲に派遣された後、戦力維持の為、第五十四師団が編成され、(第五十四連隊は通称、中部第一〇一二〇部隊と呼称)その隷下に所属したのが輜重兵第五十四連隊である。生還者によって連隊史を編纂しようとの試みがあったが、同僚や他部隊の兵士を救えなかった慙愧に堪えない思いが強く、体験記録は十分に集まらなかったのか、連隊史資料が見つからないので編纂を断念したのか。その上戦史叢書等では陸上戦闘の裏方を担う輜重兵の活躍は特異な成功例以外は皆無に近い記述である。

今回は生還された一兵士の体験記録から戦史叢書の断片的資料を紡いで戦場の実像に迫る。

兵站(補給)戦史

戦国時代の例では有名な「三木城の干殺し」「鳥取城の渴殺し」等で補給が断たれて自滅した先例が示すように補給は勝敗を決する重要な「戦いの原則」であった。近年、日本軍の大東亜戦争敗戦の要因について様々な書籍が出版されている。戦術・戦略の失敗は日本だけではなく枢軸国(独・伊)や連合国(米・英・ソ・仏・中)でも多くの失敗例が公表されている。日本軍の場合は組織と人事に誘因されたようだ。結果論からの安易な批判は注意を要するが、中でも輜重兵を蔑視又は軽視したこと、又開戦前に改めたものの重要視しなかった事は確かに残念であった。し

かし輜重兵は味方の戦力維持のために死に物狂いで戦ったことは事実として書き添える。

輜重兵の任務と地位

輜重とは軍需品の輸送と補給の両方を担当した。一般兵士と異なる輜重特務兵と呼ばれて差別されていたが昭和十四年三月から輜重兵と呼称され一般兵士と同等の扱いとなった。

輜重兵の編制

一般的には弾薬・糧食・架橋縦列を構成して軍隊に続行した。これに衛生隊と野戦病院を含めて編成。第五十四連隊は師団に所属したので連隊本部・兵器勤務隊・輸送隊・病馬廠が所属。輸送隊は自動車輜重と駄馬・挽馬輜重に区分。尚、所属すべき患者収容隊・衛生隊・防疫給水隊は師団直轄であった。初代連隊長 太田貞次郎中佐(昭和二十年五月戦死)

訓練

連隊は昭和十八年三月青野ヶ原兵舎に集結を命ぜられ、四月六日編成完結。招集された兵士には年配の方々が多く、然も肌寒い季節にも拘わらず夏用軍装が配られ寒さ対策には気の滅入る生活であった。軍馬は青紙招集令状で集められた農耕馬で、百頭以上が貨車で輸送されて来た。

軍馬は活兵器として大切にされ、馬力不足や癖のある馬を管理・訓練を担当した初年兵の苦労は同僚の対象であった。トラック等自動車も新車から中古車まで様々な車種が集められて泥濘地走行や故障対策等休み無しの訓練が続ぎ、夜になると疲れ切った兵士が更に気合を入れられる姿が目についた。三ヶ月間の訓練は瞬く間に過ぎ、任務遂行に自信のついた連隊は六月上旬宇品港に移動を命ぜられた。

ビルマ派遣

六月二十一日の出港は港の積み込み設備が完備していても軍馬は船底に起重機で一頭ずつ、車・糧食



船倉へ下ろされてゆく軍馬。たいへんな時間と労力を要した(『愛馬読本』より)

衣類・弾薬等は数日かけて積み込み、兵士は船倉の軍需品隙間で横になるのが唯一の居場所であった。下士官も兵士も何処に向かつて航行するのか一切知らされなかった。台湾・香港・サイゴンに寄港して食料・水・燃料を補給し、敵の潜水艦を警戒しながらシンガポールに七月二十日到着、八月六日出港、対岸から自動車部隊は陸路でマレー半島のペナン港に、同港で再び輸送船でビルマのラングーン①(現ヤンゴン)に向かう準備と出港の好機を待っている間に積荷の石炭から出火した船が沈没、軍需品と多くの焼死者と共に積荷の全自動車が失われて前途多難を予感させた。

八月二十日出港時は二隻の駆逐艦に護られて蛇行しながら航行、上空には友軍爆撃機が対潜警戒しつつ六日間掛けて無事ラングーン港に到着。この航海は陸海軍の緻密な護衛で沈滞気味だった兵士一同の士気は高揚した。着港すると直ちに積荷降ろしが始まったが宇品港と異なり手作業のみで遅々として進まず半分程降ろした九月三日、空襲警報が鳴り響き、英軍艦載機二機が船団を目掛けて爆弾投下、荷降ろし中の輸送船に命中し軍馬と兵士の被害も甚大であった。兵站基地であった港に高射砲部隊は配置されていなかったのか反撃も無かった。その時、二機の友軍戦闘機が飛来して敵機を追撃しようとしたが、早々に引き上げていったのには撃墜を期待していた兵士にとつては空襲の被害より大きく、士気を低下

させ、戦場の厳しさを実感させた。

自動車部隊の車数は半減し、軍馬も三割近くが損耗して輸送能力は厳しい状況であったが、前線の要求に応えるべく全将兵が一丸となつて任務を遂行した。

昭和十九年七月インパール作戦の失敗等は全く知らされていなかったもので、それまでの間、連隊は師団の要望に応えるべく昼夜を問わず自動車の修理・軍馬の管理に努め輸送力の確保を図つた。プローム②やダンカップ③・ヘンサダ④等に兵站支援基地を設定。分散している前線部隊との後方連絡線を維持していた。この間は発見された輸送車両が英軍機に徹底的に破壊され、輸送力は遂次厳しい状況に追い込まれた。十九年も暮れになると撤退してくる瘦せてポロポロの戦闘服を着た髭面の日本兵の姿が頻繁に見られるようになった。更に後方連絡線の情報が英印軍に通報され、正確な空襲や銃撃を受けて被害は甚大となる。

地獄の戦場

昭和二十年に入ると輸送力に苦悶する連隊は師団命によりタマンド⑤に兵站基地を設定した。然し、英印軍の進撃は速く、二月アン⑥付近に移設せよとの命令であったが、弾薬を輸送するのが精一杯で、多くの糧食等を残置。以後、師団全將兵は渇水・飢餓と病に悩まされながらアラカン山系を越えイラワジ河を渡河ビルマ軍の反乱と英印軍に協力するゲリラの襲撃に悩まされる。六月ベグー山系の横断は雨期も重なつて飢餓や病で斃れる兵士が続出。日本兵が立ち寄ると村民が逃走している山村では、激しい空爆と砲撃により戦死者が発生。ある村では日本兵を迎え、英印軍の砲爆をさせない協力的な村民も居た。然し大半の將兵は飢餓と病の闘いで毎日、自爆や飢えで斃れていく戦友が続出。明日は我が身か、輜重兵には多くの既婚者が居り、妻子の写真を見ては生還に意欲を保持していたが、力尽きて戦友に遺言を託した兵士も多かった。七月二十一日シタン河突破は全兵士が持たされた浮筏用の竹が予想通りに浮かず多くの日本軍兵士が溺死してシタン河を流され、河口では余にも多い死体回収にビル

マの漁民が過労状態になつたと報告されている。渡河後は数人の組になつて集結地に向かう。八月十九日英軍機が「日本降伏」のビラを撒く。二十七日連隊長より終戦を知らされる。輜重兵も戦闘での戦死は二割弱で大半は飢えと病であった。

輜重兵第五十四連隊の損耗(生還者の集計に拠る)

総員 八二二名 戦死者六一四名 生還者二〇七名

姫路護國神社に祀られているご英霊

第五十四師団衛生兵として祀られているご英霊 一三六柱

連隊の兵士で神戸護國神社に祀られているご英霊 一七八柱

姫路護國神社に祀られているビルマのご英霊総数四二六六柱

英霊に捧げる

第二代目連隊長 陸軍中佐 畑 欽二

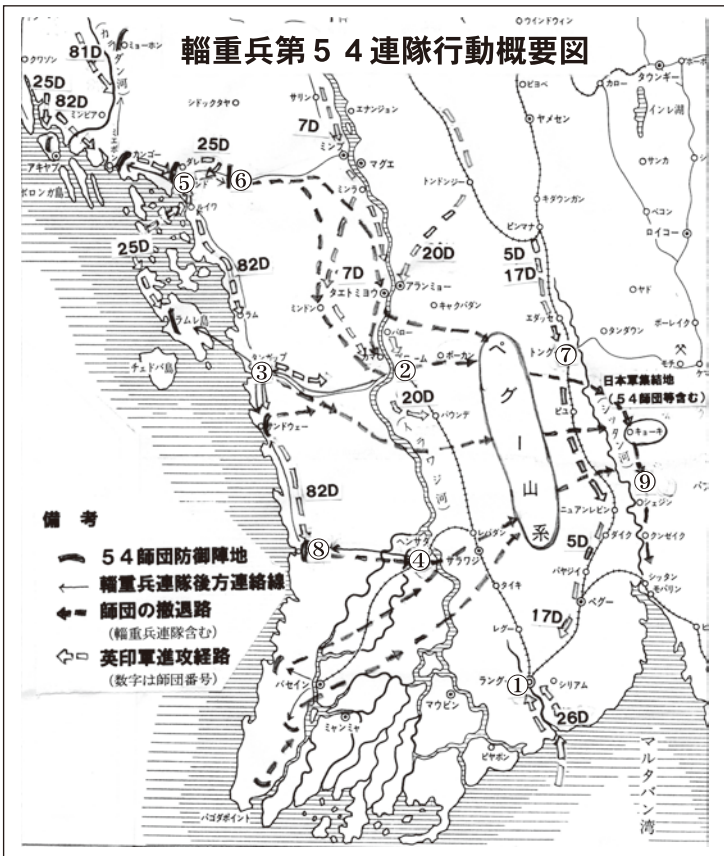
ビルマに進駐して以来、戦闘の終始を通じ、広範囲に亘る師団の作戦地域において、分散してよくその本領を発揮して任務を達成した。昭和二十年五月太田連隊長戦死の後を継いで連隊長を命ぜられ、シタン平地突破作戦から連隊を指揮した。ビルマ進駐当初は歩兵第五十四連隊第三大隊長として西南海岸グワ⑧地区防衛任務遂行中、輜重兵連隊第一中隊が後方連絡線を確保し続けてくれたことに感謝していた。縁あってこの連隊を指揮することに感銘を受け、過酷な状況下、將兵を叱咤激励してシッタ

ン平地突破作戦に全力を尽くした。八月二十七日ミランタンゼイク⑨に於いて終戦の大詔を拝し、涙と共に矛を収めたが、それまでの間、敵弾に斃れ、或は病に侵され、祖国の必勝を祈念して国に殉じられた幾多英霊を思い、御遺族の心情を察する時、胸が痛む。祖国の平和と繁栄の礎として永く語り継ぎ、次世代を担う人々の進路を照らす一灯に成る事を願う。

参考とした文献

防衛省戦史叢書(ビルマ編)
輜重兵第十七聯隊史
ビルマ想いだすま(手記) 通信兵 淡河 寿
(文責) 崇敬奉賛会理事 曾田孝一郎

輜重兵第54連隊行動概要図



備考
— 54師団防禦陣地
← 輜重兵連隊後方連絡線
← 師団の撤退路 (輜重兵連隊含む)
◁ 英印軍進攻経路 (数字は師団番号)

讓位

天皇が皇太子に皇位(天皇の位)をお譲りになり、天皇は上皇となられ、皇太子が新たな天皇となられます。これを「讓位」といい、光格天皇が仁孝天皇に讓位されて以来、約二百年ぶりのこととなります。

退位礼正殿の儀

天皇陛下の御讓位を広く国民に明らかにするとともに、陛下が御讓位前に、最後に国民の代表者に会われる儀式が、皇居の宮殿で行われます。

改元

新しい天皇の御代になると元号が改められます。

かつては御代替り以外にも様々な機会に改元が行われましたが、明治以降、皇位継承があつた時に限り行われるようになりました。よつて元号は、とまきの天皇の御代を表象するものといえます。元号は、良い意味を持つ二字を用いることとなつており、国民の理想として相応しい字が充てられます。

踐祚の式

「踐祚」は、天皇が皇位につかれることで、踐祚の後、天皇がそれを公式に国内や諸外国に宣明(宣言して明らかにすること)することが「即位」です。昭和の時代までは厳密に区別されましたが、平成の御代替りでは、すべてを「即位」としています。

剣璽等承継の儀

皇位につかれた天皇が、「三種の神器」(皇位のしるし)である鏡(八咫鏡)・劍(天叢雲劍)・別名草薙劍)・玉(八坂瓊曲玉)や天皇の印章(はんこ)である「御璽」、日本国の印章(はんこ)である「国璽」を受け継がれます。

賢所の儀・皇靈殿神殿に奉告の儀

「三種の神器」が承継されるのときと同じくして、皇居にある宮中三殿では新しい天皇が皇位につかれた旨を天照大御神(賢所)、歴代天皇と皇族の御靈(皇靈殿)、天神地祇(神殿)に奉告されます。

即位後朝見の儀

天皇のしるしを承継され、宮中三殿に奉告を終えた天皇陛下は、皇居の宮殿で、内閣総理大臣ほか三権の長、地方自治体の代表などと会われて、皇位につかれた旨を宣言されます。



御代替りについてより詳しく知りたい方は、お手持ちのスマホで左のQRコードを読み込んでください。

御代替り、祝日には国旗を掲げてお祝いしましょう。

日	月	火	水	木	金	土
4月21日	22	23	24	25	26	27
28	29 昭和の日	30 天皇陛下御讓位	5月1日 新天皇御即位・改元	2	3 憲法記念日	4 みどりの日
5 こどもの日	6 振替休日	7	8	9	10	11

※祝日は一財団会で審議中のものも含みます。

五月二日 午前十時半 於：護國神社
 天皇陛下御即位奉祝奉告祭 並びに春季例大祭齋行
 (踐祚改元奉告祭)